

巻 頭 言

Information Technologyについての課題

社長
槌本 隆光



当社の事業は車載のElectronicsですが車載Electronics全体にITとの関わりの比重がますます大きくなっています。AVC(Audio Visual Communication)はDigital化やInternet, 携帯電話の進展, Entertainment Needsの拡大に伴い Infortainment (Information+Entertainment)ということばで表現することが相応しくなってきました。Motoronics (Motor+Electronics)のECUは高性能のComputerと高度なSoftware Systemで構成されています。ITS (Intelligent Transportation System)は車の内外のCommunicationと高度な情報処理が中心です。

ITを支える基礎technologyは Processing Technology, Mediaを含む Recording Technology, Communication Technologyです。これらの基礎Technologyはその時代その時代の成長市場分野に牽引されながら成長してきました。

Processing TechnologyはSemiconductor Technologyに依存しますが, Semiconductorがどのような分野に注力され進歩してゆくかが注目される所です。最近Personal Computerから各種Digital機器, Mobile 機器用Embedded Computerにシフトしつつあり, 高性能でありながら低電力・小型化が急ピッチで進展しています。車載用のMicro Computerの一層の発展が必要です。

Recording Technologyは この10年間で最も進展しました。Audio Visual系では Cassette TapeからCD, MD, そしてDVDへ, PCでは Hard Discが著しく進歩しました。今後の車載ではHDDやSemiconductor Memoryの進展が期待でき, 音楽配信やNetwork Navigation等 Communication Technologyの進展との連携が重要になります。

ここ数年の最も目覚しい進展はInternetと携帯電話の普及による Communication Technologyの進展です。今後の車載では 携帯電話の広帯域化, Digital放送が重要ですが, TotalのCommunication Infrastructureがどのように強化されるかが非常に重要であり, その意味でDWDM (Dense Wavelength Division Multiplex: 波長分割多重技術) 等による超大容量化の進展に期待しています。

当社の基礎Technologyへのかかわりについては以下の3点が重要であると考えます。

- (1) 基礎Technologyがどのような成長市場分野を目指して激しく進展しようとしているかを常に敏感にかつ冷静に見極めていること。
- (2) 新しいTechnologyを適切なTimingで取込むこと。
早過ぎるとQualityやCostでprematureであるRiskを背負うが 遅いと競合力を失い、事業からの撤退を余儀なくされるRiskがあります。ITの世界はDog Yearで車載はOlympiadということにならないように自戒しています。
- (3) 車載市場が 充分魅力的であり大きく発展する市場であることをTechnology供給者にAppealし 車載への取り組みを強化してもらうこと。車載機器の将来像を描いて RiskにChallengeし、引っ張っていくことが必要であると思います。

基礎Technologyと同様に重要なITは HMI(Human Machine Interface)とSystem Integrationです。HMIの基礎的な部分は非車載とも共通であり上手に取込むことが重要ですが、同時に車載特有のHMIの発展がますます重要になってきました。Display, Voice, Sensing技術やAgent機能等が重要です。Computerの高性能化、HMIの高度化、高機能化によるService Levelの向上等に伴って Digital回路の複雑化、Softwareの複雑化・大規模化が非常な勢いで進行しています。高度に複雑なSystemを如何にSimpleにするか 階層化・標準化・部品化等System構築面でのSystematicな取り組み、High Level Languageによる記述、Simulationの充実等Softwareの生産性・信頼性・変化への対応の容易性を一層追求していくことが必要です。

自動車業界では生き残りをかけた合従連衡・再編が行われ競争が一層厳しくなりました。私ども車載Electronics Makerも環境はますます厳しくなります。QualityとCostは生き残りの大前提ですが それだけでは不十分であると認識しています。Group内外の企業との連携を含めIT関連技術を磨き Originalityあふれる新しい提案を行うことでお客様から評価される企業を目指したいと思います。